

vol.06

2019年10月発行

# くりらぼ通信

p1-2. everydayくりらぼ | p3. くりらVOICE | p4. リレーコラム/information

## everyday くりらぼ 2019.5~2019.8

くりらぼ多摩川では、下記「ふりかえりList」にあるように、日々いろいろな活動を行っています。今号では、5つの活動をご紹介します。

### ふりかえり List

- 5/25** 町工BAR vol.28  
[町工場の再生～音楽で新たな命を吹き込む～] たまりBAR
- 6/20** くりらぼワークショップ  
日本女子大学・額田研究室くりらぼ訪問
- 6/20** 【初回】くりらぼ多摩川おはなし会 +制作あそび  
[パブルアートであじさいづくり]
- 6/26** 場所とからだ 拠点を仮にでも定めてみる  
福留麻里inくりらぼ多摩川 vol.1
- 7/20** 町工BAR vol.29  
[繋ぐ職人～出逢いが生み出す縁パワー～] たまりBAR
- 8/2** 町工場"超"初心者講習会 # 1  
tig溶接についてのレクチャー
- 7/24** S C R A P # 工場見学  
[矢口西サマーチャレンジ]
- 7/25** S C R A P # 工場見学 # 自由研究 (初回)
- 7/28** くりらぼ多摩川出張ワークショップ @グランデュオ蒲田  
[スプリングドラム作り]
- 7/28** 日曜くりらぼ倶楽部ワークショップ  
[紙で丈夫な橋を作ってみよう!]
- 8/2** 町工場"超"初心者講習会 # 2  
tig溶接についてのレクチャー
- 8/24** くりらぼ多摩川出張ワークショップ [切粉と革の端材のキーホルダー作り] @ 大田区観光情報センター
- 8/25** 「おおたユニバーサル・ワークショップ～地域資源のものづくりを未来へつなぐ」第一弾『錫の皿をつくろう!』



### 7・8月 くりらぼ多摩川ワークショップ SCRAP # 自由研究 & # 工場見学

#### 工場の要らなくなった材料を販売!小学生の自由研究をサポート

くりらぼ多摩川ではこれまで、工場で要らなくなった材料を頂き、アクセサリ作りなどのワークショップを行ってきました。今年はこれらの廃材・SCRAPを1g=1円で販売する「SCRAP #自由研究」が、7月25日から8月29日にかけての夏休みの間、毎週木曜日にくりらぼ多摩川で開催されました。当日は販売だけでなく、アクセサリ作家さんや工場の方がアドバイザーとして参加し、子供たちの夏休みの自由研究等の作品作りをサポートしました。7月24日には、矢口西小学校のサマーチャレンジに協力し、矢口西小学校の生徒10名ほどが参加する工場見学を行いました。工場で職人さんからお話を聞き、実際の加工の様子を体感しました。金属加工を行っている株式会社いわさき機工では、目の前でプレス加工を行ってもらい、出来上がったばかりのスチール製のブックエンドを配布しました。



▲実際にレーザーで切断している様子を見学。他にも各工場でその場でしか味わえない体験をすることが出来ました。



▲当日のくりらぼには工作道具やグルーガンを置いて子どもたちの創作活動をサポートしました。

## リレーコラム

### 新田丸と私



くりらぼ多摩川のある下丸子・武蔵新田エリア#新田丸エリア。横浜国立大学の学生である私たちの新田丸への想いを綴ります。

#### 今回のテーマ『時間と空間、ヒトのつながり』

加賀谷尚健 (横浜国立大学学生)

かつて、六郷の地は私の先祖の領地であった。

当時、関東一円を戦国大名後北条氏が治めていた時代のことである。後北条氏はその治世下で高度にシステム化された先進的な領内経営を行ったことが近年の研究で明らかとされている。これは城を起点とした陸上交通のみならず、河川(多摩川本流やその支流)の流路を重用していたと考えられる。物資の主な輸送手段は船で、水も食料も働く人も川沿いに拡がり、賑わっていたであろう。これは現代において、戦前・戦後・高度経済成長期において、工業化に伴う、水を大量使用する工場の用地となった。下丸子・武蔵新田に広がる工場(こうば)エリアもこれにあたる。これは日本の経済成長を支えると共に種々の問題を生じた。それは、人体に悪影響のある排気ガスや深刻な工業・生活廃水による汚水問題などである。前後者共に、そのほとんどが法整備や意識向上で改善したといえよう。

多摩川流域地域の現在はどうだろうか。本来、恒常的な河川の氾濫などの被害があり、台地に比べ地盤が弱いと推測される多摩川流域は、徹底した護岸工事・水量の調整がなされ、

建築技術の向上も相まって、高層マンションの立ち並ぶ街へと大規模な再開発が進んでいる。はたして、過去から繰り返される、河川周辺へのヒト・モノ・シゴトの集中が起きている、といえる。

昨今の都市部への人口集中による都市問題が、歴史上の国家(計画的な集住がなされた古代ギリシャ都市国家、大建築や水路の管理・設計で知られる古代ローマ帝国、多民族・多宗教を包容し寛容であったイスラム帝国、膨大な人口を支えや異民族の略奪・襲撃の経験を持つ古代中国王朝など)から知見やノウハウを得られるように、人口の急増が見込まれる今後の河川流域地域の諸問題は古き(過去)現在に実績を持つ対象)を温める(尋ねる)必要があると思う。ここにおいて、長い歴史と実績を持つ工場に再び注目すべきだと考える。また、同時に、さらに昔の対象(日本のみならず世界の諸事例)に拡げていくことで、日本の工場の未来を考える上でも価値のある示唆が得られるのではないだろうか。くりらぼでの活動を通して、私はそんなことを考えた。

## information

### @ くりらぼ多摩川

魅力ある「モノづくりのまちづくり」を推進する活動拠点である「くりらぼ多摩川」。

ここでは、くりらぼ多摩川にて今後開催予定のイベントをいち早くお届け!

10/13

#### 町工場の技術で楽しむものづくり!

おおたユニバーサル・ワークショップ  
～地域資源のものづくりを未来へつなぐ～



大田の町工場の職人さんのお話と、2種類のものづくり「光る星座スタンド」&「きれいな螺旋を描く切粉を封入したレジンのキーホルダー」を体験します。

時間: 10月13日(日)13:00~16:00  
場所: くりらぼ多摩川  
料金: 無料  
申込: NPO法人大森まちづくりカフェ  
MAIL: art@oomori-cafe.com  
TEL: 03-5935-7881  
Webサイト: www.oomori-oavp.net

10/20

#### 出張ワークショップ 革のキーホルダーづくり

第40回新田まつり  
スタンブラリー&多摩川七福神縁日



模擬店、大道芸、ものづくり市、大抽選会...!お楽しみがいっぱいの新田まつりにくりらぼ多摩川もブースを出します。革の廃材にカラフルスタンプや刻印をしてオリジナルキーホルダーを作ります。

日時: 10月20日(日)10:00~15:30  
場所: 新田神社の境内とその周辺  
料金: 300円  
第40回新田まつり  
主催: 武蔵新田商店会 協力: 矢口南町会

11/16

#### くりらぼマルシェ

年に一度の工場一斉オープン OOF  
くりらぼではマルシェを開催!



おおたの多彩なモノづくりが大集結!モノづくりを体験できるワークショップ(有料)や、大田の工場の製品やクラフト作家さんの作品の展示販売、工場廃材の販売を行います。工場見学の合間にオリジナルの作品作りを楽しんだり、お気に入りの一点を探したり、楽しみにしてください。

時間: 10:00~16:00  
場所: くりらぼ多摩川工場棟

[くりらぼ通信] vol.06 くりらぼ通信は、創造製作所「くりらぼ多摩川」が不定期に発行する活動報告紙です。

発行日: 2019年10月1日 発行元: くりらぼ多摩川 〒146-0093 東京都大田区矢口1-21-6 (東急多摩川線武蔵新田駅より徒歩約5分)

編集: 横浜国立大学地域課題実習「おおたクリエイティブタウンプロジェクト」 編集協力: 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター・一般社団法人大田観光協会

公式HP: <https://www.o-2.jp/lab/index.html> Facebook: <https://www.facebook.com/kurirabo>

事務局: 一般社団法人大田観光協会 〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-20-20 大田区産業プラザ2階 TEL 03-3734-0202 FAX 03-3734-0203 MAIL cre.lab@o-2.jp



### 音響設計を通じた町工場の再生

建築士でありチェロ奏者としても活動される空音舎の田中渚氏をお迎えし、建築士と音楽家の両立から現在の活動のきっかけとなる空音舎建設までの道のり、町工場の方との地域活動や今まで手がけた建物についての貴重なお話をいただきました。最後に今後の展望として、音楽家としては音楽を通しての情報発信やコミュニティの和づくりを、建築士としては今ある建物の価値を見出しその利用に向けた専門的なサポートを行うなど、両側面での強みを生かした町工場の再生を行っていくことを挙げられました。



### バネを使った不思議な楽器づくり

長い筒にバネを取り付けた楽器『スプリングドラム』を子供たちと一緒に制作するワークショップを行いました。筒（プリングルスの空き缶）に穴を開ける作業やネジの生産を大田区の町工場に協力して頂きました。また、穴あけのバリ取りの話やバネの生産過程など話を載せたパンフレットを制作し、町工場の技術を参加者に学んでもらいました。子どもたちはそれぞれおもしろいデコレーションしてマイスプリングドラムを完成させました。



### 世界に一つだけ！唯一無二のアクセサリ

おしゃれなイヤークセサリーのワークショップが開催されました。町工場が出た布の端材とプラバンを加工し組み合わせたデコパーツをレジンで飾り付けることで完成します。参加者は、様々な種類の布や自由な形に切り出したプラバン、ビーズなどのデコレーションにより、オリジナリティあふれる、自分だけのイヤークセサリーを作り上げていました。それぞれの想いが詰まった作品ができたのではないのでしょうか。



### 1枚の紙にペットボトルは何本乗るのか！

日曜くりらぼ倶楽部による、子供向けのワークショップが開催されました。橋の種類や特徴について説明を受けた参加者は、まず全員で発泡スチロールのアーチ橋を作り、構造や応力の流れ、施工順序などを学んだのち、1枚の紙で、より多くのペットボトルを載せられる橋づくりに挑戦しました。ヒントは無く、自分の頭で考えます。最初は苦戦したものの、やがて紙をじゃばらなどに折り、1本2本とペットボトルを載せられるようになっていくと、会場には喜びの声が上がっていました。

## くりらVOICE

くりらVOICE（ヴォイス）では、くりらぼ多摩川に所縁のある方にクローズアップ！ご本人のこと、くりらぼとの関わりなど、ここでしか聞けない声をお届けします。



### 脇 行雄 さん

くりらぼ多摩川

#### 町工BARでの活動を通して

一脇さんというと、町工BARやたまりBAR（※1）で活動されているイメージがありますが、そちらに関わるようになったのはどのような経緯なのでしょうか？

脇：最初のころはそっちに関わろうとか考えてなくて、町工BARに一般客として参加する中で栗原さん（※2）から誘われて、それならって、軽い感じですね。

一栗原さんに巻き込まれちゃったって感じですかね？（笑）

脇：もちろんそういう面もあるんですけど（笑）。お誘いを頂く前から興味はあったんです。それは、第七回OOFのイベントでINDUSTRIAL JP（※3）の映像を見たときです。その時に町工場の職人さん以外でもモノづくりにこんな風にアプローチ出来るんだと気付かされました。それで、町工BARでこんな人達を紹介したいって、そう思っていたところに丁度、栗原さんからお誘いを頂いたんです。それまでの町工BARは職人さんがモノづくりについてがっつり話すといったスタンスでしたが、もう少し違う視点からモノづくりにアプローチする方々を紹介出来ないかと思っていました。自分で企画するようになってからはそうした一風変わったモノづくりへのアプローチをしているゲストスピーカーをお呼びするようにしています。

脇：一つは町工BARは普段ではお話を聞けないような人と出会えるとても魅力的なイベントなのに、講演会のように一方的にお話を聞いて「あー面白かった」とそのまま終わってしまうところがとても勿体ないなあと思っていました。音楽ホールの音響設計を行う、空音舎の田中渚さんをゲストスピーカーとしてお招きした（※4）回の時、参加者同士が自由に交流出来る時間を設けたのですが、参加された建築系の方々から田中さんにたくさんの質問が向けられ、ビジネスの話に繋がる新しい関係性が生まれる可能性を実感しました。普段は交わることが無いスピーカーと参加者との間で、新たなつながりやビジネスが生まれるというのは、町工BARの規模感だからこそ可能で、そうした化学反応が起こるような仕掛けを各回仕込んでおく必要があると思います。

もう一つは、毎回大変大変面白いお話だからこそ、聞ける人が20人、30人の規模に収まってしまっているのはとてももったいないと思っています。当日の風景を映像で撮影し、くりらぼ多摩川のサイトにアップし、もっと多くの人の目に触れ、興味を持ってもらうことで町工BARを通じた人の輪が更に広がるのではないかと可能性を感じています。一お話ありがとうございます。是非とも脇さんがされた経験、思いが今後の町工BARにつながっていけばと感じました。

（※1）町工BAR・たまりBAR：大田区や工場に関わりのある方をスピーカーとしてお招きする「町工BAR」と、同日開催で自由なトークを楽しむ「たまりBAR」  
（※2）栗原洋三さん：一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター副センター長。詳しくはくりらぼ通信第4号のくりらVOICEを参照  
（※3）INDUSTRIAL JP：町工場の製造・加工の映像やその過程で発生する音を駆使して先進的なプロモーションビデオを制作するプロジェクト。

（※4）田中渚さん：空音舎一級建築事務所代表。建築音響設計とチェロ演奏者の2つのスキルを生かして活躍。詳しくは2ページの記事を参照。

プロフィール  
脇 行雄 Yukio Waki  
大阪出身、大田区在住。  
工場長・山本章子さんとのつながりからくりらぼ多摩川に2017年から関わる。町工BAR、たまりBARなどくりらぼのイベントに協力。